

# 授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	高等部
教科	社会
単元	「You は日本の何を知っている？」(日本の自然環境と生活)

## 【単元のねらい】

- ・日本の都道府県の特産品は、地方ごとの気候や自然条件に関わっていることに気づいている。
- ・都道府県ごとの特産品について調べ学習を行いながら、オリジナルマップとしてまとめている。
- ・友だちと協力しながら、都道府県の特徴についての知識を深めようとしている。

## 【授業の概要・工夫点など】

### 【授業の概要】

- ① グラフや写真を比較しながら、日本の地方ごとの気候の特色や違いを確認する。
- ② 都道府県ごとの特産品を調べ、その野菜や果物が気候とどのように関連しているかを知る。
- ③ 自分が好きな地方を選び、その地方の特産品がわかるオリジナルマップを作成する。
- ④ 都道府県の特産品すごろくに、友だちと協力しながら取り組む。

### 【工夫点】

- ・単元前半の気候の特色や気候と特産品との関連については、難しくならないようにイラストや写真が多いワークシートを準備した。
- ・制作活動が好きな生徒が多いので、Canva を使ってマップ作成するという課題を取り入れた。
- ・楽しく都道府県について学べるよう、すごろくなどのゲームを毎回の授業で取り組むようにした。  
(すごろくのルール：とまったマスにある特産品リストを見て、どこの都道府県かを答える  
正解→次のターンはサイコロ2つ、調べて正解→次もサイコロ1つ、不正解→1回休み)

### 【教材の写真(1)】

**気候に合わせた農業について**

冷涼で雨が少ないのが好き

暖かくて雨がが多いのが好き

暖かくて雨が少ないのが好き

夏に雨が冬は乾燥が好き

北海道の気候  
冷帯の気候。1年を通して気温が低い。降水量は少なく梅雨の影響を受けにくい。

日本海側の気候  
冬は雪が降るため降水量が多い。夏は晴天が続くことが多い。

中央高地の気候  
山で囲まれているので1年を通して降水量が少ない。夏と冬の気温差が大変大きい。

### 【生徒の制作物】



### 【教材の写真(2)】

**START 47都道府**

あきたごもち  
なまはげ  
まいたんぼ

信州が誇る果  
産天イーグルス  
牛タン料理

三陸の海のアワビ  
盛岡冷麺が有名  
わんこそば

日本で一帯広い  
キツネやシママエナガ  
ジャガイモやメロン

香多方ラーメン  
赤へこ  
会津若松城

本州の一帯北にある  
ねぶた祭り  
りんごの生産1位

北海道・東北地方

## 【児童・生徒の変容など】

- ・素材が豊富でデザイン性がとても高い資料作成アプリを使うことで、調べ学習の意欲や制作物へのこだわりを維持しながらオリジナルマップの制作を進めることができていた。
- ・友だちとチームですごろくに取り組むことによって、調べ学習で得た各々の知識を共有したり、答えが合っているかを相談したりすることで、コミュニケーション力も高めることができた。

## 授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	高等部(2年)
教科	道徳(人権学習)
単元	偏見や差別を広げないために、自分ができることを考えよう。

### 【単元のねらい】

- ・イメージが偏見や差別といった人権問題に繋がる構造について理解することができる。
- ・偏見や差別を生まないために自分たちに何ができるかを考え、表現することができる。

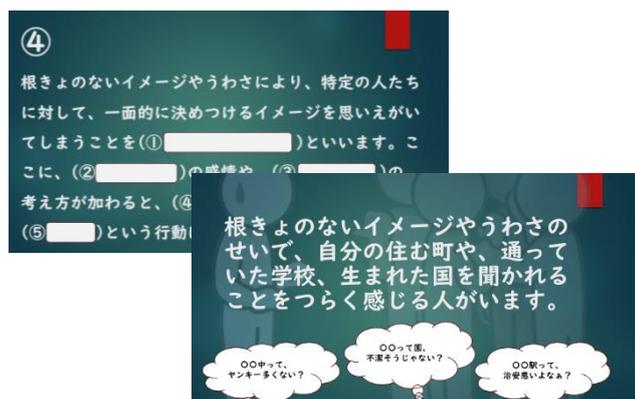
### 【授業の概要・工夫点など】

- ①クイズ「東京の人のイメージ」に取り組む
- ②自分の持つイメージが事実かどうかをタブレット端末で調べる
- ③偏見や差別について書かれた分掌の空欄を埋める
- ④偏見や差別を広げないために、自分ができることを考え、「Canva」アプリでポスターを作る

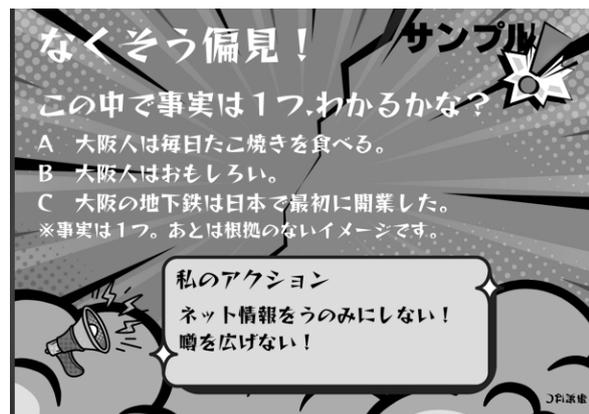
#### 【工夫点】

- ・事実となる条件について、いくつか例を用いて説明を行った。
- ・生徒たちの慣れ親しんでいる「Canva」アプリを使うことで、主体的に取り組む様子が見られた。
- ・共同編集機能を使い、教員作成のサンプルや、友だちの取り組みをいつでも見られるようにした。

### 【教材の写真】



※授業で使用したスライド(一部)



※ポスター(サンプル)

### 【児童・生徒の変容など】

- ・共同編集機能により、主体的に他者の取り組みを参考にする様子が見られた。
- ・授業の振り返りでは、「私たちにできること」として、「ネットの情報はうのみにしない」「ネットの情報を簡単に信じない」などの声が挙げられた。

## 授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	中学部
教科	国語
単元	AI に伝えよう！～主語・述語・修飾語の学習～

### 【単元のねらい】

- ・文節を「ネ」を用いて区切ることができ、主語・述語・修飾語の違いや働きを理解している。
- ・主語・述語・修飾語を意識したプロンプトを自分で考え、生成 AI を活用して動画を制作している。
- ・完成した動画を通して文法の働きを視覚的に確認し、言葉への関心・学習意欲を高めようとしている。

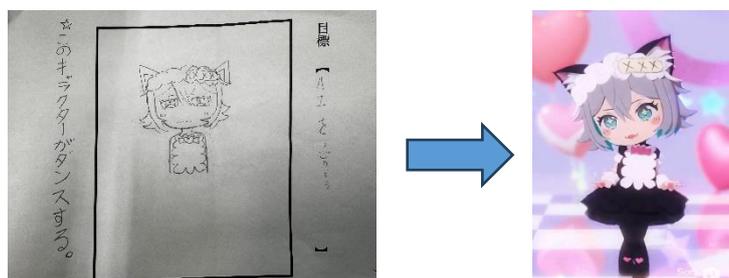
### 【授業の概要・工夫点など】

文節を「ネ」を用いて見分ける練習を繰り返し行い、文の構造への理解を深めた。その後、主語・述語・修飾語それぞれの役割について学習し、文法の基礎的な知識を習得した。単元の後半では、習得した知識を活用して生成 AI へのプロンプトを作成し、そのプロンプトをもとに生成 AI で動画を制作する活動に取り組んだ。

#### 【工夫点】

- ・単元の始めに「生成 AI を使って動画を作る」というゴールを提示することで、生徒のモチベーションを高め、文法学習への意欲を持続できるようにした。
- ・完成した動画を視聴しながら、プロンプトに含めた主語・述語・修飾語が映像にどのように反映されているかを視覚的に確認できるようにした。
- ・イラストを補助的に用いることにより、複雑なプロンプトの作成を不要にした。

### 【生徒の制作物】



### 【児童・生徒の変容など】

生成 AI で動画を作るという明確なゴールがあったことで生徒の積極性は非常に高く、退屈になりがちな文法の学習が終始活気あるものとなった。また、完成した動画を鑑賞しながら、主語・述語・修飾語の働きを映像と結びつけて確認することができ、文法への理解を、実感を伴った形で深めることができた。

## 授業実践（各教科・自立活動）

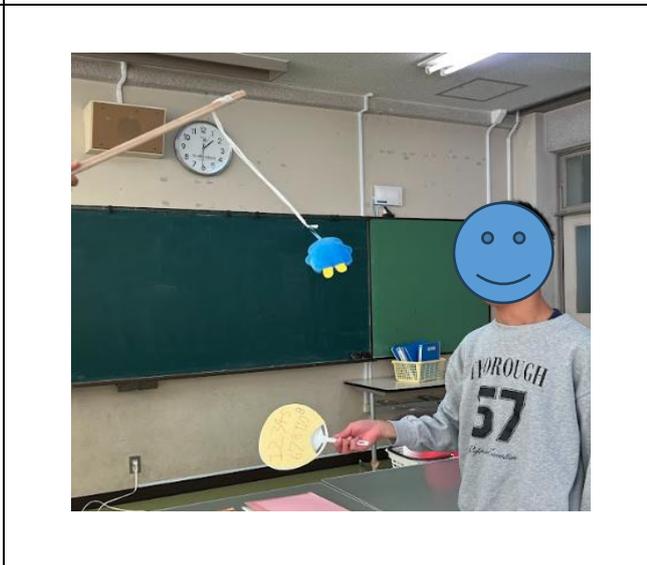
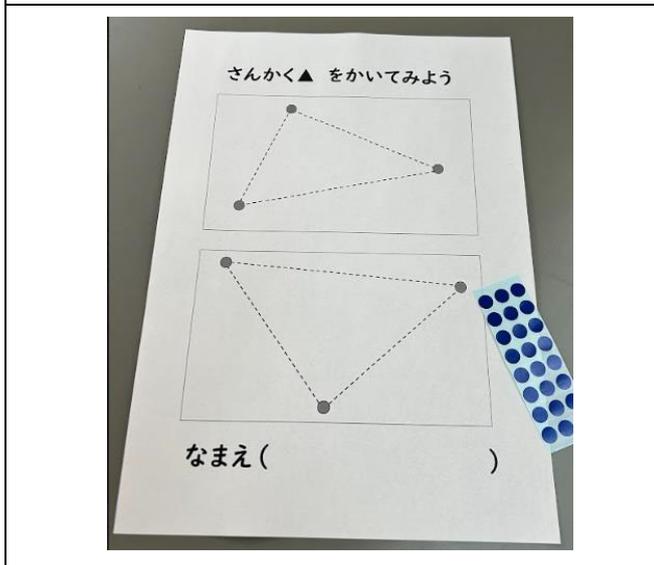
校種(学年)	高等部（2年）
教科	数学
単元	「定規を使って線や形を描こう」

<b>【単元のねらい】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定規の押さえ方や線の引き方など基礎的な定規の使い方を知る。</li> <li>・ 形遊びをしたり、面を写し取ったりすることを通して、物の形を認め、形の特徴について捉え、図形の基礎となる経験を豊かにすることをねらいとする。</li> </ul>

<b>【授業の概要・工夫点など】</b>	
<p>①定規の押さえ方、線の引き方を確認する。</p> <p>②直線を引く練習を行う。</p> <p>③定規を使って図形を描いてみる。</p> <p><b>【工夫点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 角に丸シールを貼ることで、3つの点をつなぐと三角形、4つの点をつなぐと四角形になることを意識できるようにした。</li> <li>・ 定規に沿わせて線を引くことが難しい生徒に関しては、補助具を使用するようにした。</li> </ul>	<p><b>【ビジョントレーニングの紹介】</b></p> <p>「ビジョントレーニング」は、課題を注視することが難しい生徒がいたり、下を向いていて白板やモニターに目を向けることが難しかったりする生徒がいるため、2年生から取り組んでいる。1学期は自分の手で対象物に触れるという形で行ってきたが、ステップアップして、2学期からは手で直接対象物に触れるのではなく、うちわを使用している。</p>

**【教材の写真】**

**【教材の写真】**



<b>【児童・生徒の変容など】</b>
<p>定規を使用することが初めての生徒が多かったが、繰り返し取り組む中で定規を片手で押さえて使用することや、定規に沿わせて線を引くことなど、ポイントを押さえて使用できるようになってきた。定規に沿わせることが難しい生徒に関しては、線を引く部分がくり抜かれた定規を使用することで、他の生徒と同じように直線を引くことができた。</p>

## 授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	全学部・全学年
教科	自立活動
単元	
自立活動の区分・項目	身体の動き(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること

### 【単元のねらい】

◎目と手を協応させて物を操作する力を育てる

- ・手指の操作や力加減を経験する
- ・座って作業に取り組む時間を少しずつ伸ばす
- ・対象物を注視して取り組む力を育てる

### 【授業の概要・工夫点など】

#### 【活動の概要】

コップのふたに開いた穴にストローを入れる「プットイン」の活動になります。  
対象物を見て、ストローを持ち、穴に入れるというシンプルな動作で取り組むことができるため、集中が続きにくい子どもでも比較的取り組みやすい作業になります。作業学習の導入としておすすめ。

#### 【工夫点】

- ・ストローの本数をあらかじめ提示するなど、作業の見通しをわかりやすくする
- ・最初はストローの本数を少なくして成功体験をつくる
- ・作業時間は短く設定し、達成感を得られるようにする

#### 【実際の様子】



#### 【手順】

##### 【初級】

- ・ストローを穴に入れる

##### 【中級】

- ・コップのふたの色と同じ色のストローを入れる

##### 【上級】

- ・色分けをしながら本数を数える
- ・順番に入れる（赤→青→黄色など）

### 【児童・生徒の変容など】

ストローを穴に入れる活動を通して、対象物をよく見て手を動かす経験を積むことができます。  
繰り返し取り組むことで、目と手の協応や手指の操作が育ち、少しずつ座って集中して作業に取り組む力につながりました。